

同時資料提供

大阪市政記者クラブ

大阪教育記者クラブ

南大阪記者クラブ

大阪科学・大学記者クラブ

平成26年9月30日
大阪市立自然史博物館
担当：学芸課 石田 惣(動物研究室)
電話：06-6697-6221

ミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」を開催します

大阪市立自然史博物館では、平成26年10月18日（土）から11月9日（日）まで、ミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」を開催します。

大阪市立自然史博物館はこの度、貝類学者・大山桂（1917-1995）博士の蔵書である「大山桂貝類学文庫」（書架延長約270メートル）の寄託を鳥羽水族館より受けました。

「大山桂貝類学文庫」は大山桂博士が個人で収集し、研究資料として活用した膨大な貝類学の書籍・学術雑誌で、18～19世紀の西洋で発刊された貝類図譜をはじめとして、貝類学では東アジア最大級の文庫です。博士の没後、蔵書は鳥羽水族館が保管していましたが、長期保存により適した環境に置くとともに、調査研究・普及教育目的での利用を促進するため、一括して当館に寄託されました。

本企画展では文庫の中から、代表的かつ貴重な貝類図譜をいくつか選んで展示します。

ぜひこの機会に、貴重な学術資料を多くの方にご覧いただきたく、このミニ展示を広く市民の皆様に広報していただきますようお願い申し上げます。

■開催概要

1. 名 称：ミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」
2. 会 期：平成26年10月18日（土）から11月9日（日）まで
3. 会 場：大阪市立自然史博物館 本館1階 ナウマンホール
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-23
TEL:06-6697-6221 FAX:06-6697-6225
地下鉄御堂筋線「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR 阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1,000m
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

4. 開館時間：【平成 26 年 10 月 18 日（土）～10 月 31 日（金）】
9：30～17：00（入館は 16：30 まで）
【平成 26 年 11 月 1 日（土）～11 月 9 日（日）】
9：30～16：30（入館は 16：00 まで）
5. 休館日：月曜日（ただし、月曜日が休日の場合はその翌日）
6. 観覧料：常設展入館料
大人 300 円、高大生 200 円
中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者 1 名含む）、
大阪市内在住の 65 歳以上の方は無料（要証明）
7. 主催：大阪市立自然史博物館
8. 展示資料：
・「Neues Systematisches Conchylien-Cabinet」
(F. H. W. Martini and J.H. Chemnitz, 1769-1829)
ドイツの貝類図譜で、国内の機関には収蔵されていない貴重書。
・「Spécies Général et Iconographie des Coquilles Vivantes」
(L. C. Kiener, 1834-1850)
フランスの貝類学者キーナーによる貝類図譜で、写真のように精緻な
石版画で有名。
・「Index Molluscorum Maris Japonici」 (W. Dunker, 1882)
ドイツの貝類学者ドゥンケルによる日本の海産貝類のモノグラフ。
・「貝尽浦之錦」(大枝流芳, 1751)
江戸期の香道家大枝流芳による貝類図鑑及び貝合わせに関する書。
・「貝千種」(平瀬與一郎, 1914-1922)
日本初の貝類博物館を開設した平瀬與一郎による、多色木版の貝類
図鑑。

※資料保護のため、会期中展示する巻の入れ替えやページの変更を行います。

■展示資料

「Neues Systematisches Conchylien-Cabinet」 (F. H. W. Martini and J. H. Chemnitz, 1769-1829)

ドイツで18世紀から19世紀にかけて発刊された、全12巻からなる貝類図譜です。貝類学の重要な文献として位置づけられます。国内の図書館や研究機関には収蔵されていない、極めて貴重な図書です。

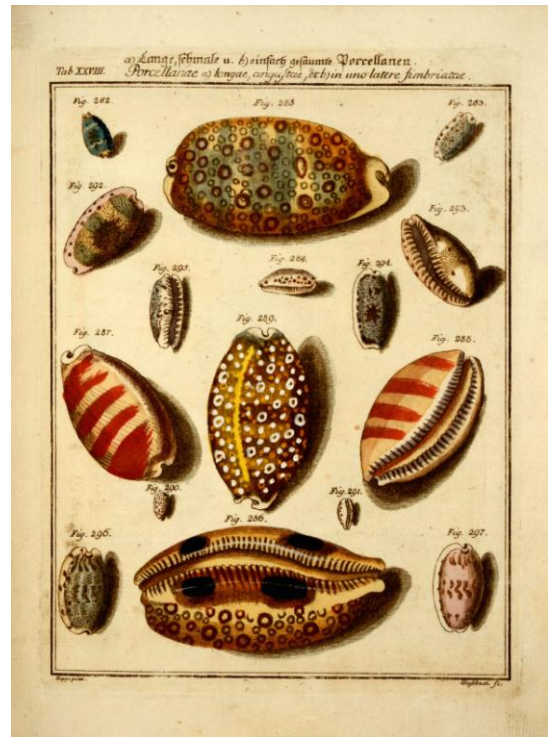


図1(左): 中扉 / 図2(右): タカラガイの仲間の図版

「Spécies Général et Iconographie des Coquilles Vivantes」

(L. C. Kiener, 1834-1850)

フランスの貝類学者キーナーによる、全 11 巻の貝類図譜です（文庫に現存するのはうち 7 巻）。写真印刷を凌駕する精緻な石版画で、その美しさは貝類図譜の最高峰とされます。貝類学においても非常に重要な文献です。

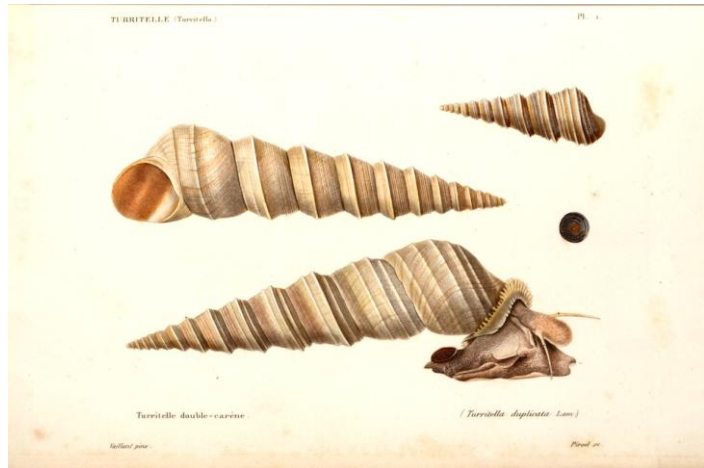
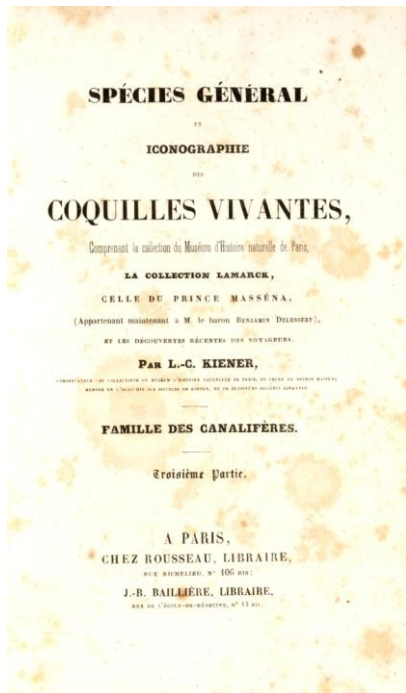


図 3(左) : 中扉 / 図 4(右) : ブットウキリガイダマシの図版

「Index Molluscorum Maris Japonici」 (W. Dunker, 1882)

ドイツの地質学・貝類学者ドゥンケルがまとめた、日本の海産貝類のモノグラフ（体系的にまとめた研究書）です。約 3000 種が掲載され、私たちになじみのある貝も多く含まれています。日本の貝を研究する上で欠かせない文献の一つです。

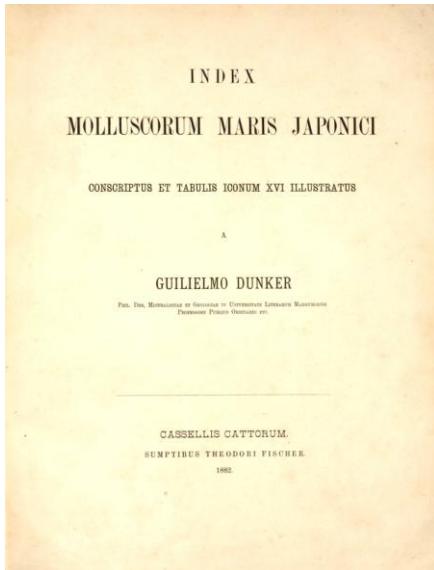


図 5(左) : 中扉 / 図 6(右) : ウグイスガイ科の図版 一番下はアコヤガイ

「貝尽浦之錦」(大枝流芳, 1751)

江戸期の香道家大枝流芳(おおえだ・りゅうほう)が自ら集めた貝を基にして執筆した、貝類図鑑及び貝合わせに関する書です。近世日本における貝の分類概念が伺える文献の一つで、現代の私たちが使う和名の由来を調べる上でも重要な資料です。



図7(左): 表紙 / 図8(右): 「百介圖(ひゃくかいのず)」の一部

「貝千種」(平瀬與一郎, 1914-1922)

日本で初めて貝類専門の博物館を京都に開設した平瀬與一郎(ひらせ・よいちろう)が発刊した貝類図譜です。約400種の貝を浮世絵と同じ伝統的な多色木版画で描いています。典雅な装丁ながら学術性を兼ね備えており、内容は近代的な図鑑というべきものです。

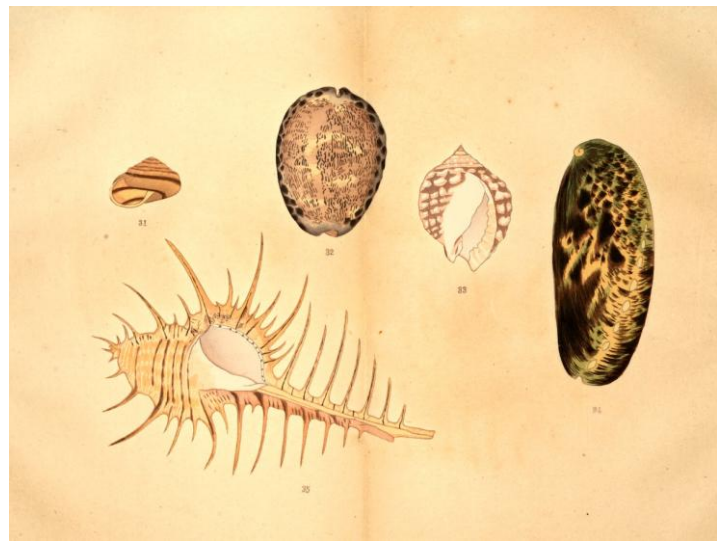


図9(左):表紙 / 図10(右):巻一の一部(ミミガイなど)

■当館での収蔵状況（一部）



■大山桂博士について



大山桂（おおやま・かつら 1917 - 1995）博士は、海軍省マカッサル研究所（太平洋戦争中にインドネシアに置かれていた日本の科学研究機関）などを経て、戦後に地質調査所の調査員となり、退官後は鳥羽水族館の研究員を勤めた貝類学者。

父は考古学者の大山柏（おおやま・かしわ）で、祖父は陸軍元帥の大山巖（おおやま・いわお）。

■広報および広報用画像に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課 広報担当 山上（やまがみ）

TEL : 06-6697-6221 FAX : 06-6697-6225

HP : <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

MAIL : k-yamagami@ocmo.jp